入選　高学年の部

まる子と友蔵よ、永遠に

茨城県
桜川市立南飯田小学校　五年
安田　桃佳

古室恒男七十八才。身長百五十七センチ。体重五十二キロ。しゅ味、ゲートボール。特技、けんすい。好きな食べ物、寿司。これが、日々、わたしを育ててくれている祖父だ。わたしと祖父は、ちびまる子の「まる子と友蔵」と家族からよばれるくらい仲が良い。祖父とは、ぴったり気が合うし、とてもわたしをかわいがってくれる。

毎日恒例のせい比べでは、わたしの頭からまっすぐ手をもってこない。必ず、目まであるわたしの身長を鼻の所にもってきて、「中学校になったら、ぬかれちゃいますね。」と、きまって言うおちゃめな祖父だ。家族は、「もう、今年にぬくんじゃない。」なんて心無いことをいうが、わたしは、「そうですね。」と軽く、さらっと返事をするようにしている。身長なんて、わたしより大きくても小さくてもわたしよりえらいことにはかわりないからだいじょうぶだよ。おじいちゃん。

もちろん、きびしいときだってある。でも、正しいからなっ得してしまう。祖父は、わたしとの約束を決してやぶったことがない。じゅくの送りむかえも、絶対おくれたことがない。自分にもきびしい人だ。だから、わたしは、しかられたときには素直に「ごめんなさい。」が言える。

祖父は毎日日記を書いている。国語で勉強した兼好法師と同じく「つれづれなるままにひくらしこころにうつりゆくよしなしごとをかきつくれば。」なのねと思っていたら、そうではなかった。祖父が毎日きちんと日記を書いているのは、わたしたち家族のためだった。後々、いろいろなことが分からなくてこまらないように、地いきのならわしやさまざまなことが書かれていた。

今年の春、そんな祖父が原因不明の病気にかかってしまった。病院で、つかれが出たと言われて、家でりょう養することになった。それでも頭がいたいのは治らず、今度は全身にしっしんができてしまった。今度はひふ科に行った。病名は帯状ほうしんといい、その病院でも体全体にできる帯状ほうしんは三例目ということだった。通常一部分だけできてもいたいのに体全体というのだから相当いたかったはずだ。相変わらずがまん強い。完治するまでに、一か月半かかった。その間に、祖父と仲良しのわたしは祖父の菌から水ぼうそうになり、二人仲良くりょう養することになった。祖父は、申し訳なさそうだったが、わたしは、早く水ぼうそうにかかれてほっとした。やっぱり二人の仲は本物だった。

後一月で、祖父は七十九才になる。お誕生日プレゼントは、手作りの花束を予定している。七十九本に一つずつ「ありがとう」の手紙をつけるつもりだ。いっぱいあるのでそろそろ準備を始めようと思う。これからも輝け古室恒男七十九才。まる子と友蔵は永遠だよ。